学校番号	409

平成 31 年度　理科

教科	理科	科目	地学基礎	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	「地学基礎」改訂版　（啓林館）						
副教材等	プリント等						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

教科書・プリントを用いて授業を行います。各単元において、地球や地球を取り巻く環境に興味・関心を持ち、地学の基本的な概念や原理を学習する。日常生活との関わりも意識し、科学的に考える力を身につける。

2　学習の到達目標

日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、地学的に探究する能力と態度を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c: 観察・実験の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地球を取り巻く環境について関心を持ち、意欲的に探究しようとするとともに、地学的な事物・現象を一連の時間の流れの中で捉えるなど、科学的な見方や考え方を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境に関する事物・現象の中に問題を見いだし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	地球や地球を取り巻く環境に関する観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	地球や地球を取り巻く環境について、基本的な概念や原理･法則を理解し、知識を身に付けている。
評価方法	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・定期考査	・授業態度 ・発問評価 ・ノート提出 ・小テスト ・定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	活動する地球	プレートと地球の活動	○		○		a:プレートの分布と運動，およびプレート運動に伴う地殻変動について関心をもっている。 b:中央海嶺，海溝，大山脈のような大地形がプレートの運動によって形成されることについて考えることができる。 c:地震，火山などの地球の活動が，プレート境界と関連があることを調べることができる。 d:地球内部の構造を理解する。また、その密度や性質から地震波の特徴もあわせて考えることができる。	授業態度 発問評価 ノート提出 小テスト 定期考査
		地震	○	○	○	○		
		地球の内部構造	○		○	○		
2学期	移り変わる地球、大気と海洋	堆積岩とその形成		○			a:大気の組成や大気圏の構造，オゾン層，雲の発生に関心をもち意欲的に探求しようとしている。 b:風化や流水の働きを知ることによって堆積岩の形成や地形を理解している。 c:飽和水蒸気圧と温度との関係を示すグラフから，相対湿度を計算によって求めることができる。 d: 気団や日本の天気の特徴，集中豪雨や台風について理解している。	授業態度 発問評価 ノート提出 小テスト 定期考査
		大気圏	○		○	○		
		冬から春の気象	○			○		
		夏から秋の気象	○			○		
3学期	太陽系と太陽 自然との共生	太陽系と太陽	○	○			a:太陽系の内部構造や、天体について興味を持っている。また、我々が暮らす地球の環境	授業態度 発問評価 ノート提出
		地球環境と人類	○	○	○	○		

		自然災害と社会		○	○	○	変化について探求しようとしている。 b:地球環境の変化に伴う災害について考えることができる。また、防災や減災について自分が取れる行動を判断できる。 c:災害の観測方法を理解し、将来の地震や噴火などの災害に対して自ら調べることができる。 d: オゾン層の破壊や地球温暖化などを理解するとともに、環境を保全するための知識を身につけている。	小テスト 定期考査

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
　　c:観察・実験の技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。